

二十世紀哲学における唯物論的弁証法の展望 ——フランスと日本、そして両者の媒介としてのチャン・デュク・タオ

時 間：2026年2月20日（金）12:30-18:10

場 所：立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館・1階 カンファレンスルーム

言 語：フランス語、日本語 ※本シンポジウムは翻訳・通訳を提供いたします。

主旨

二十世紀の多くの哲学者たちはドイツの新カント学派とフランスの新批判主義による認識論的考察に留まることなく、事象の歴史的・物質的なメカニズムを把握する道を開拓していった。戦後フランス哲学と戦前日本哲学との類似性の一つは、唯物論的弁証法に関する思想的状況である。本シンポジウムは間文化的なアプローチのもとで、日・越・仏・独などの哲学・思想を比較し、異なる哲学的、あるいは政治学的な文脈のなかで主題化された唯物論的弁証法の革新的な役割に焦点をあて、その過去の哲学史研究のみならず、未来社会における実践可能性を問おうとするものである。

【講 演】12:30-13:30 ■司会者：亀井大輔（Kamei Daisuke, 立命館大学文学部教授）

◆発表者：アラン・パトリック・オリヴィエ（Alain Patrick Olivier, フランス・ナント大学教授）

テーマ：弁証法の未来——デリダ、メルロー＝ポンティ、アドルノ（L'avenir de la dialectique. Derrida, Merleau-Ponty, Adorno）

休 憩：13:30-13:40

【発 表】13:40-15:40 ■司会者：廖欽彬（Liao Chin-ping, 中国・中山大学哲学系教授）

◆発表者：亀井大輔（立命館大学文学部教授）

テーマ：ジャック・デリダとチャン・デュク・タオ——フッサー『幾何学の起源』をめぐって（Jacques Derrida et Tran Duc Thao : autour de « L'Origine de la géométrie » de Husserl）

◆発表者：黃雅嫻（Huang Ya-hsien, 台湾・中央大学哲学研究所准教授）

テーマ：物質と記号（La matière et le signe）

◆発表者：福家崇洋（Fuke Takahiro, 京都大学人文科学研究所准教授）

テーマ：「理論」と「実践」の狭間で——河上肇と「絶対的非利己主義」への途（Entre « théorie » et « pratique » : Kawakami Hajime et la voie vers un « altruisme absolu »）

休 憩：15:40-16:00

【発 表】16:00-17:20 ■司会者：福家崇洋（京都大学人文科学研究所准教授）

◆発表者：廖欽彬（中国・中山大学哲学系教授）

テーマ：田辺哲学におけるマルクス（Marx dans la philosophie de Tanabe）

◆発表者：ロマリク・ジャネル（Romaric Jannel, 立命館大学文学部非常勤講師）

テーマ：チャン・デュク・タオの弁証法的現象学とその対象（La phénoménologie dialectique de Trần Đức Thảo et son objet）

休 憩：17:20-17:30

【総合討議】17:30-18:10 ■司会者：亀井大輔（立命館大学文学部教授）

コメンテーター：加國尚志（Kakuni Takashi, 立命館大学文学部教授）、森本淳生（Morimoto Atsuo, 京都大学人文科学研究所教授）

主 催：立命館大学・間文化現象学研究センター

人文科学研究所、京都大学人文科学研究所「中日の近代哲学・思想の交差とその実践」